鍋倉新田穴堰

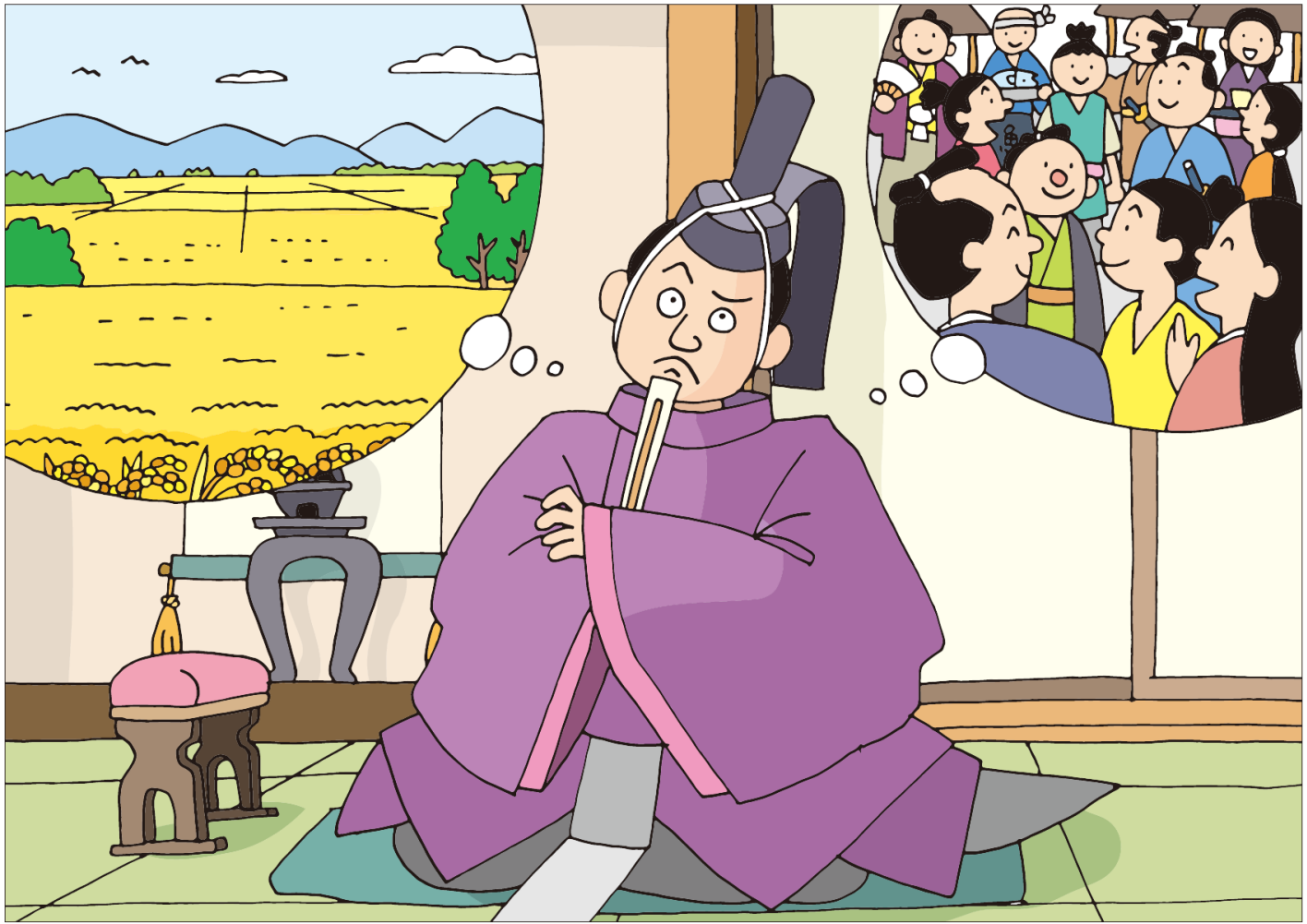
【ナレーション】

このお話は、鍋倉新田穴堰の資料や、言い伝えを基に作られた物語です。

むかしむかし、今から四〇〇年ほど前、江戸時代のはじめの頃、花巻地方山沿いの地区は高い台地となってたため、山の水が流れてきませんでした。

そのため、田んぼが作れず、広い原野とわずかな畑があるばかりでした。

鍋倉新田穴堰



【ナレーション】
そのころ南部藩のお殿様は

【お殿様】
「平和な世の中になり、武士の数も増えてきた。まして庶民の数はさらに多くなってきている。このままでは、いずれ財政が厳しくなりそうだ・・・藩の米の生産を増やさなければならないな。」

【ナレーション】
そう考えました。南部藩だけではなく各藩は、これまで以上に、お米をたくさん作るために、新しく田んぼを作ることを勧める「新田開発令」という命令を出したのでした。

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
花巻地方でも南部藩より直々の命令が出され、新田開発をすることになりました。

【村人Ａ】
「これはすごい！新しい田んぼを作るらしいぞ。」

【ナレーション】
村人たちは大いに喜びました。

【村人Ｂ】
「いやしかし、水がないのに、どうやって田んぼを作るというんだ？」

【村人Ａ】
「それもそうだ･･･　どうしたらいいだろう。」

【ナレーション】
花巻地方では、台地の地形が新田開発の問題となっていました。

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
南部藩の人たちは考えました。

【藩士Ａ】
「花巻地方の開発には、大がかりな工事が必要だ。誰かその道に詳しい者はおらぬか？」

【藩士Ｂ】
「そうですね～・・・、数年前、和賀（わが）川流域を開発した、奥寺（おくでら）と猫塚（ねこづか）という者がおります。その者を使ってはどうでしょう？」

【藩士Ａ】
「ほう、あそこを開発した者たちか。よし、その者達に託してみるか。」

【ナレーション】
花巻地方の新田開発には多くの人達が関わっていたとされています。
奥寺堰を開削した奥寺八左衛門（おくでらはちざえもん）や、鉱山の技術者である猫塚藤次郎（ねこづかとうじろう）、そして藩士の伊藤久慶（いとうきゅうけい）、煤孫治兵衛（すすまごじへい）などが、力を合わせて水路を作り、その修理をしてきたという記録が残っています。

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
さて、奥寺たちは花巻の地形を調べ

【猫塚】
「水がないのはこの台地のせいか。どこからか水を持ってこなくてはならないな。」

【奥寺】
「そうだな。水路を作らなければならないな。今までの経験から考えて、水の取り入れ口は、この豊沢川(とよさわがわ)の上流からだな。山の間の川だから、穴堰を掘ることにしよう。」

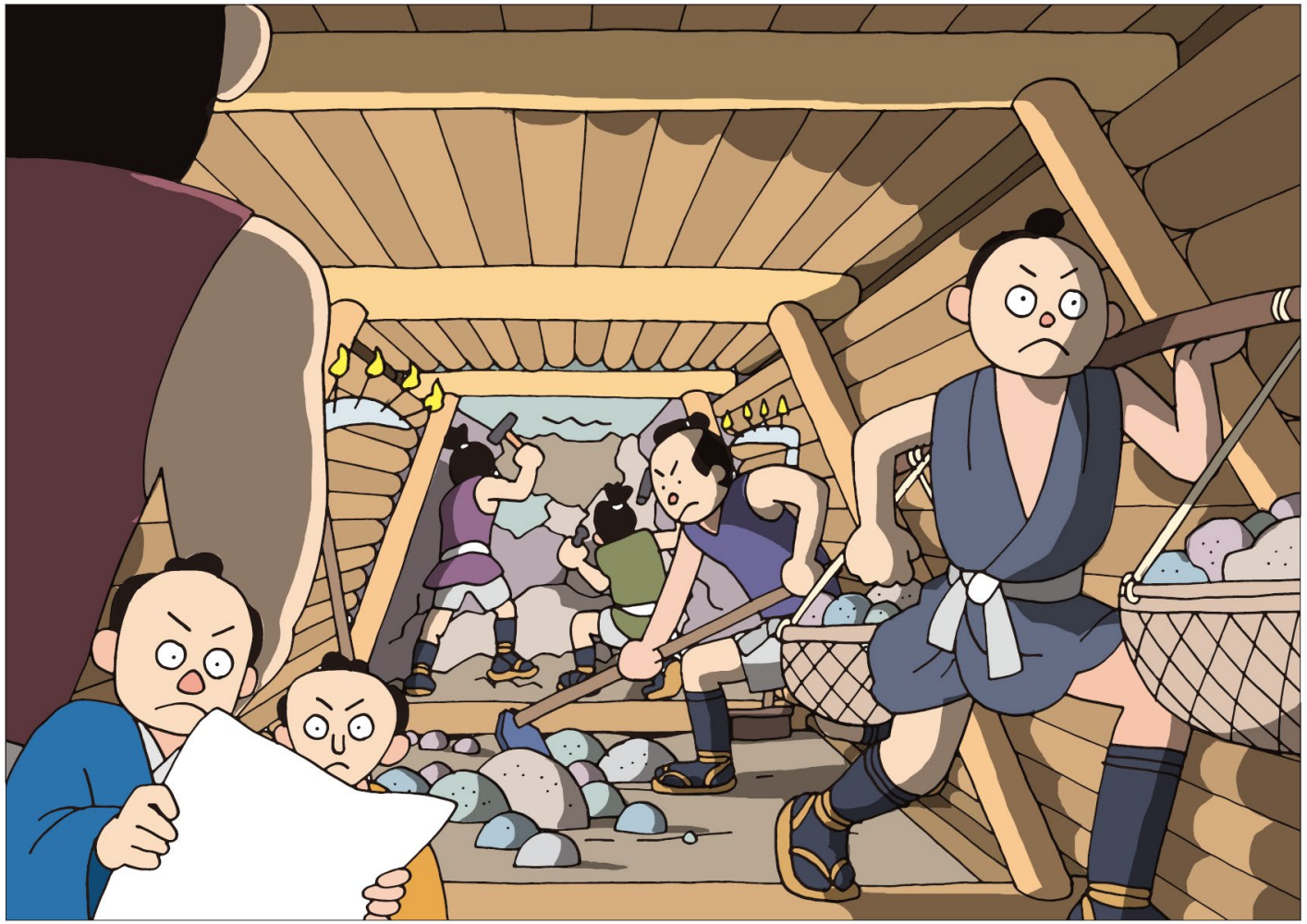
【村人Ａ】
「えええ！山を掘るんですか？しかも、そんな長い距離を？そんなの無理です！」

【ナレーション】
村人たちは、びっくりです。奥寺たちの計画は、穴堰を二キロメートルも掘るということでした。

【奥寺】
「しかし、それが一番の方法だ。みんなで力を合わせて頑張ろう！きっと成し遂げられる。我々は藩に申し入れをして、お金や道具を充分に用意する。新しい田んぼのために、どうかみんな協力してくれ。」

【ナレーション】
奥寺たちは村人を一生懸命説得しました。

鍋倉新田穴堰



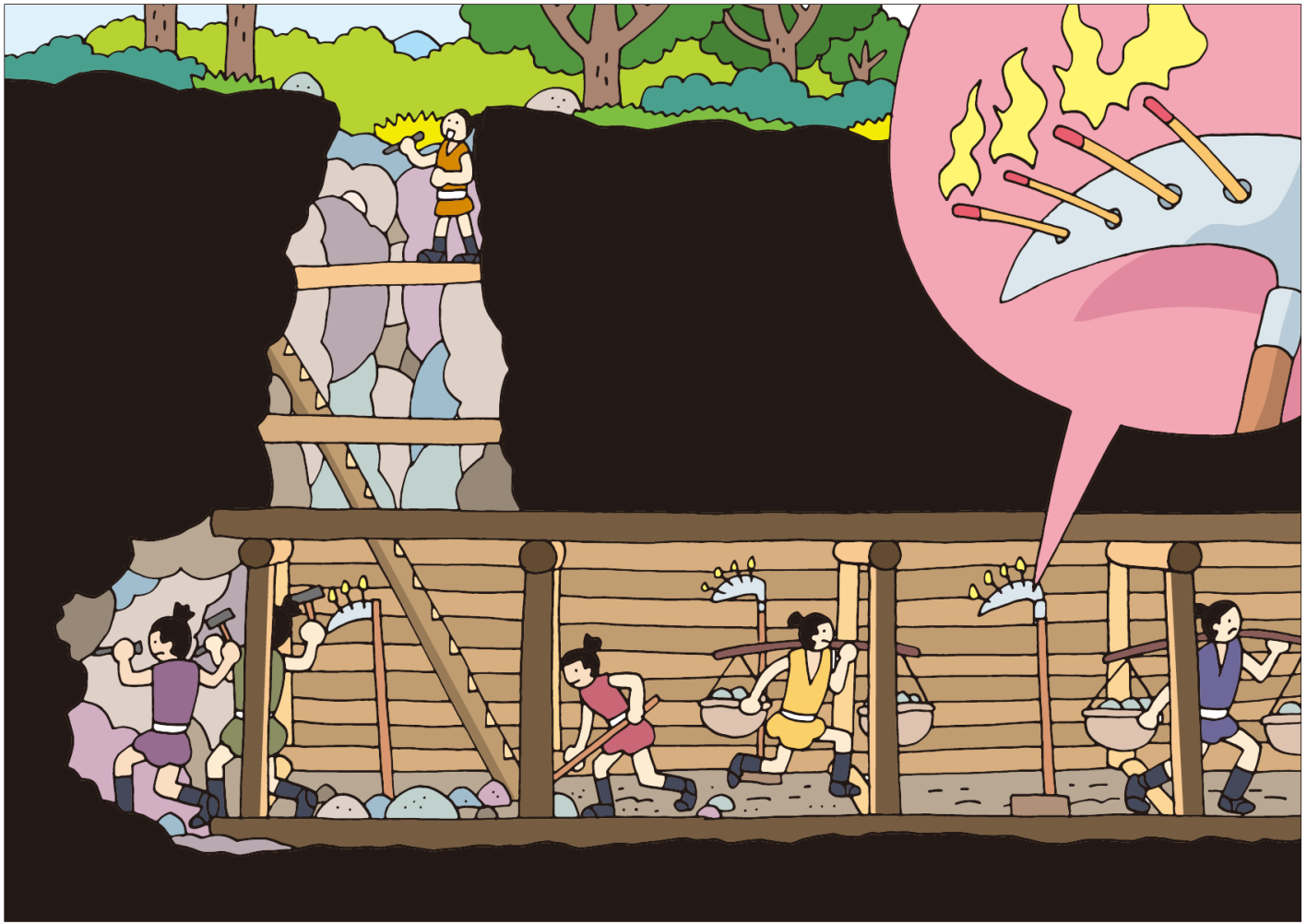
【ナレーション】
この水路を「鍋倉新田穴堰」と名前をつけ、藩へ申し入れをし、許可がおりました。
いよいよ工事の開始です。

奥寺たちは、穴のすべての長さを計算し、それを三つに分け、そして入り口と出口の両方から掘り進めるという方法をとりました。

しかし、山の岩盤は岩にしては意外にもろかったのです。崩れては大変なので、四ツ留（よつどめ）と呼ばれる、上下左右を松の木で補強する方法をとりました。

工事は役割を分担し、岩を削る者、削った岩を運ぶ者それぞれ五〇人、三箇所で、合計三〇〇人が二十四時間交替で掘り続けました。

鍋倉新田穴堰



【ナレーション】
工事では、穴の中が暗くならないように、数本の細い竹を古いカマに通し火をつけ、それを一定間隔に灯す「あかしダケ」という照明をつかいました。
さらに、たて穴を掘って上からの明かりを入れたりもしました。

そして三年間、多くの工夫と、多くの人そして、多くのお金を費やし、とうとう穴堰が開通したのです。

【村人Ａ】
「やったああ！とうとうやったぞ！」

【村人Ｂ】
「これで田んぼが作れる、米を作れるぞ！」

【ナレーション】
村人はみんな大喜びです。
そして、早速川から水を取り入れました。

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
ところが、川から水を取り入れても穴から水が流れてきません。
どこかがうまくいかなかったようです。

【奥寺】
「なんということだ・・・　しかし、これでやめるわけにはいかない。みんな、たのむ！！もうひと頑張りしてくれ！」

【ナレーション】
奥寺たちは村人をもう一度説得し、水が流れない理由を一生懸命考え、そこから三年の間何度も修正をくり返し、穴を手直ししたのでした。しかし、それでも穴から水は流れてきません。
さらに三ヶ月、いくら修正しても水が流れないので、村人たちはとうとう

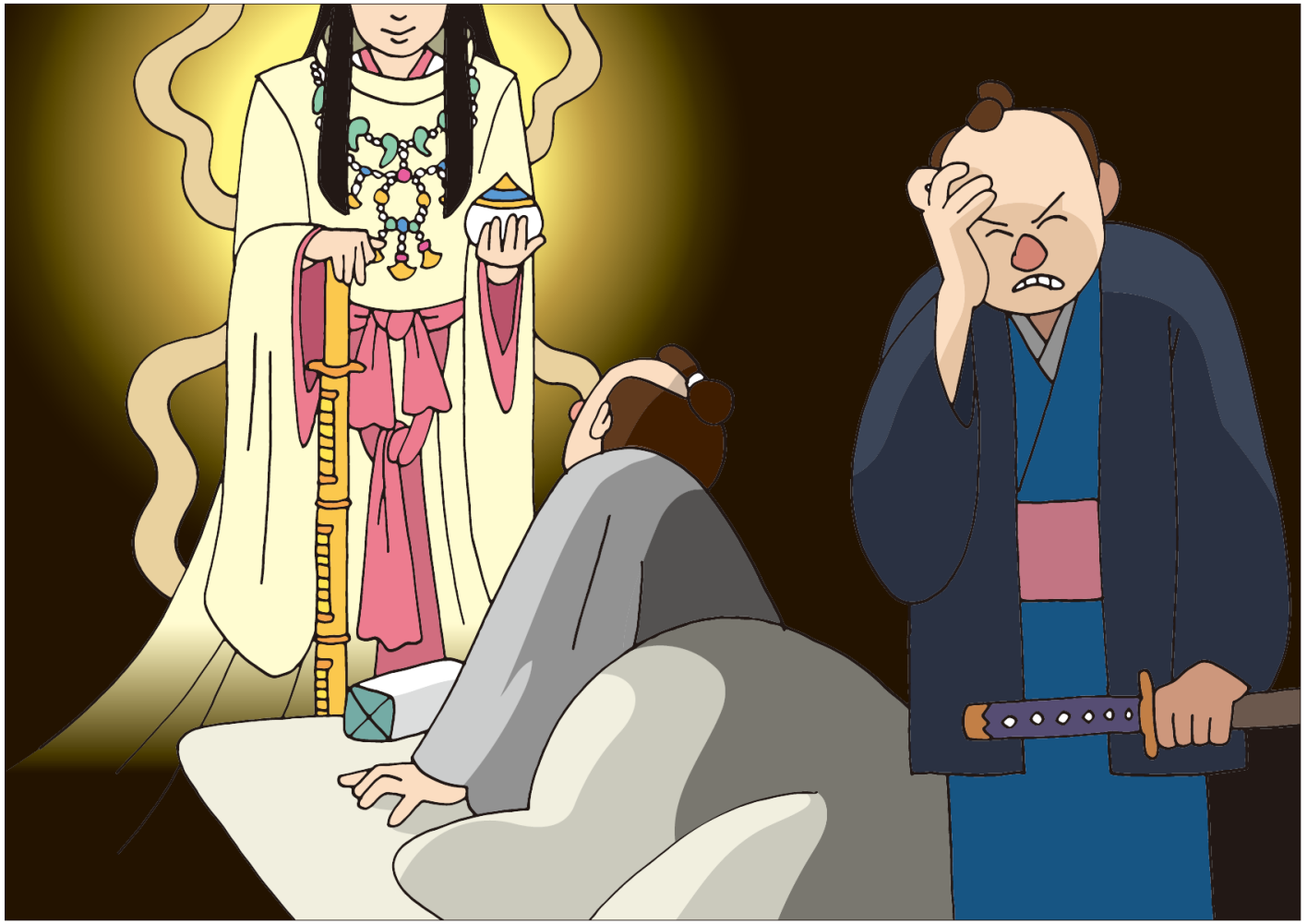
【村人Ａ】
「何度やっても、ダメだ・・・」

【村人Ｂ】
「六年間以上も頑張ってきたのに、無駄骨だった。どうしてくれるんだ！」

【村人Ａ】
「やっぱり穴堰なんで無理だったんだよ！もうやめるべ！」

【ナレーション】
村人達は、口々に言うのでした。

鍋倉新田穴堰



【ナレーション】
奥寺たちは

【奥寺】
「みんなの力と藩のお金をたくさん使って、このざまとは･･･　めんぼくない。
この上は、切腹して許しを請うべきか･･･。

しかし、私一人が死んだところで、村に水が通るわけでもない。いったいどうしたらいいんだ･･･」

【ナレーション】
そう思い悩んだ、ある夜のこと、奥寺の枕元に神様が現れたそうです。

【神様】
「明日から私の所に来なさい。村の民のために一緒に願うがよい。」

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
奥寺は、ワラにもすがる思いでした。
工事の関係者に昨夜のお告げを話してまわり、その次の日から、みんなで神明神社(しんめいじんじゃ)にこもりました。
そして、昼も夜もお祈りをしたのです。

【奥寺】
「神様どうか我々の願いを聞いてくださいませ。
この地の民のために行ってきた工事をどうか実らせてください。お願いいたします神様。」

【ナレーション】
彼らは七日七夜、一生懸命お祈りをするのでした。

鍋倉新田穴堰

【ナレーション】
そして八日目
ドドーーーーーーー

なんと、今まで一滴の水も流れなかった鍋倉新田穴堰から溢れんばかりの水が流れ出たのです。
その水は、乾いた台地の土地をドンドン潤していきました。

【奥寺】
「おおおお！神様が我々の願いを聞いてくれたんだ！」

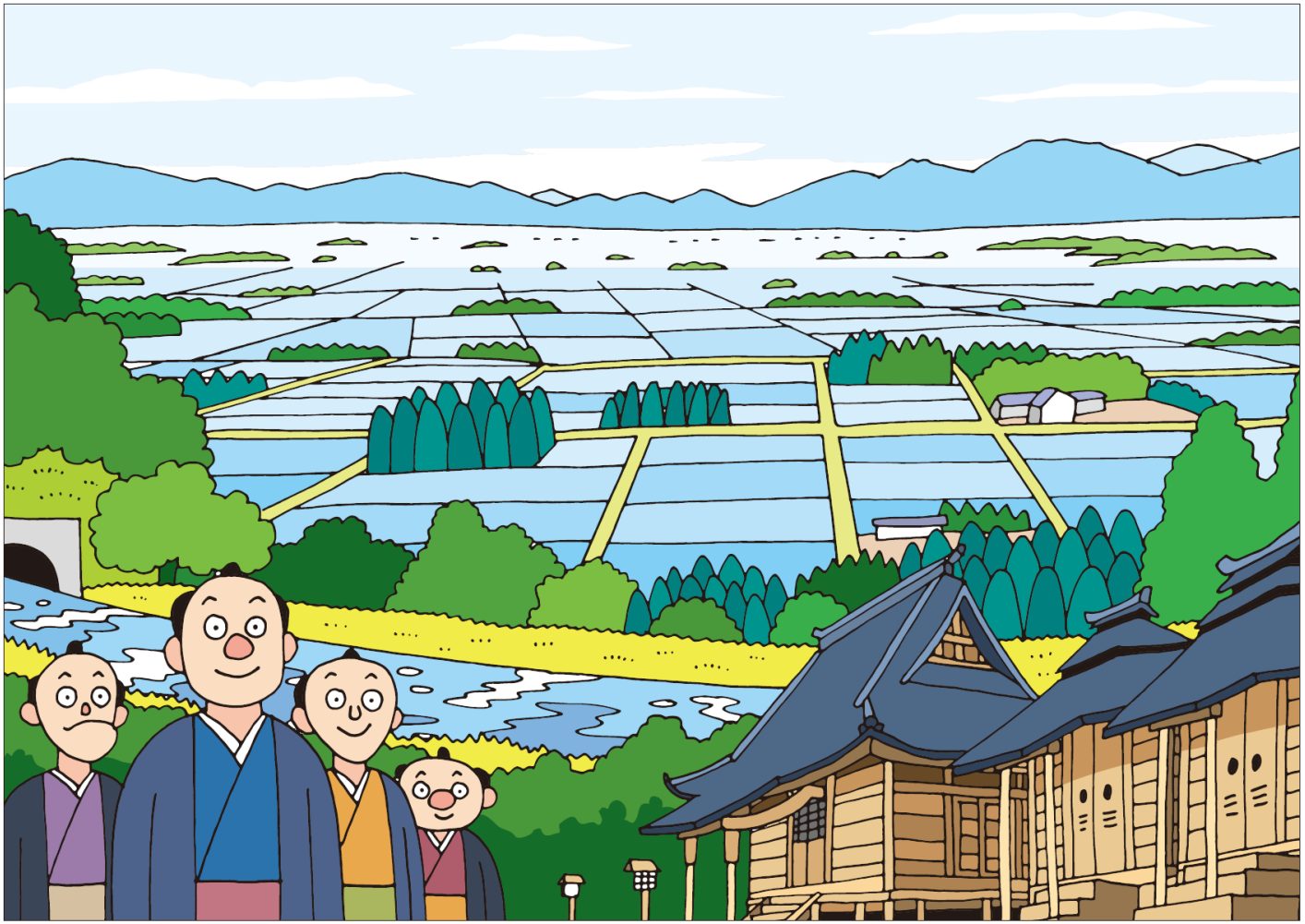
【猫塚】
「これはすごい！水がたくさん出ている！」

【奥寺】
「よし！これで、この村にも新しい田んぼが出来るぞ！」

【猫塚】
「本当に良かった！ありがとうございます神様！」

【ナレーション】
奥寺達はよろこびでいっぱいでした。

鍋倉新田穴堰



【ナレーション】

そして工事に携わった人々は、神様への感謝を込めて、新しい神社を建立しました。

鉱山師の猫塚藤次郎は、穴堰ができた後も改修等に大いに貢献しました。

その後、豊沢ダムの建設に伴い堰や水路の改修が行われ、鍋倉新田穴堰は現在では、新田堰頭首工と大幹線用水路と呼ばれるようになりました。

花巻市の湯本（ゆもと）、宮野目（みやのめ）、湯口（ゆぐち）や豊沢川（とよさわがわ）をわたって太田（おおた）、北上市飯豊（いいとよ）など、花巻市や北上市の西部の田んぼに水を運ぶ重要な用水路となり、地域を豊かにしているのでした。

おわり